

2021年度 農場実習アンケート結果

農場実習後、参加者に実習によって「学んだこと」「考えの変化」「満足度」に関する17の設問について5段階評価でアンケート調査を行った。

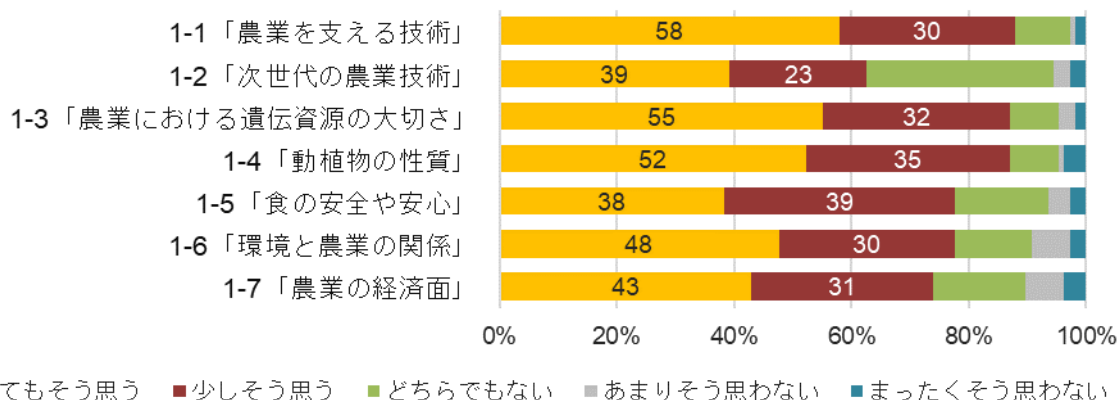
調査対象者

新型コロナの影響で、参加者が少なかったことから、アンケートの回答者107名であった。そのうち、留学生は0人、男女比はほぼ同程度であった。回答者のほとんどが農学系や生命科学系などの理系であった。学年別に見ると、1年生と3年生が多かった。

		n	割合%			n	割合%
所属	国内	107	100.0	学年	1年	49	45.8
	国外	0	0.0		2年	12	11.2
性別	男性	52	48.6		3年	43	40.2
	女性	52	48.6		4年	3	2.8
	無回答	3	2.8		5年	0	0.0
学部	農学系	34	31.8		6年	0	0.0
	獣医・畜産系	18	16.8		院生	0	0.0
	生命環境系	55	51.4	その他	0	0.0	

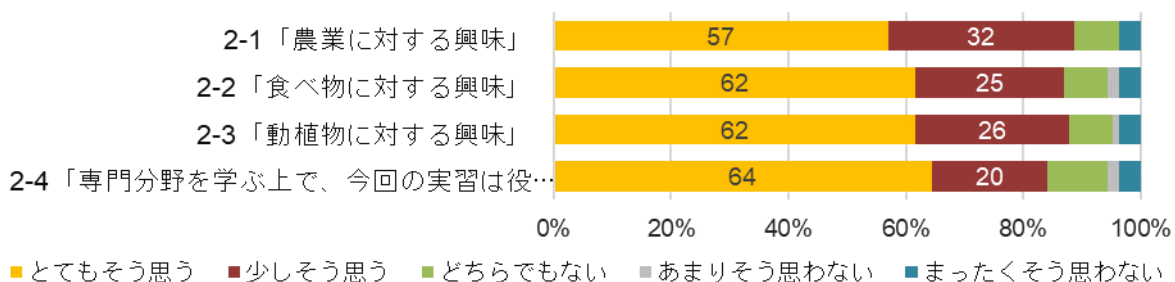
実習参加による学習効果

「実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化」に関する7つの設問では、全体の約73～88%以上の学生が「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答をした。「農業を支える技術」と「農業における遺伝資源の大切さ」、「動植物の性質」は学習効果の高いことが示された一方で、その他の4つの設問については比較的学習効果が低かった。特に「次世代の農業技術」の満足度が低かった。これは、前者はどの実習プログラムでも学ぶ内容であるのに対し、後者は実習プログラムによっては学ぶ機会がないためであると考えられる。



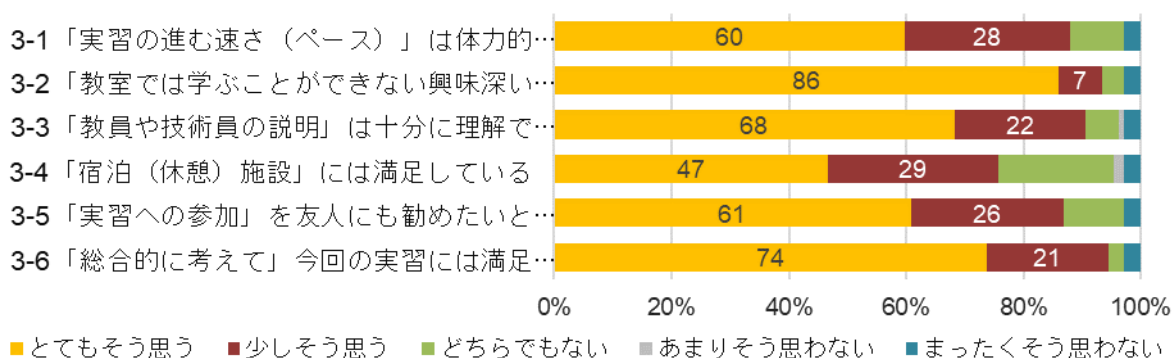
実習後の考えの変化

実習後の考えの変化に関する4つの設問のうち、「農業」「食べ物」「動植物」に対する興味が湧いたと回答した学生は全体の約84～89%であった。9割近くの学生が、農業に対する興味が増したと感じていた。また、「専門分野を学ぶ上で、今回の実習が役立つ」の設問には、今年は理系の学生が多かったことが関係あるのか、「とてもそう思う」「少しそう思う」が全体の84%となり、専門性を学ぶ上で有意義であったと考えられる。



実習への満足度

「実習の進む速さ（ペース）」については、全体の9割近くが無理なく参加できたと回答していた。例年に比べ、夏の暑い時期の実習が少なかったことから、特に疲れたとの意見は見られなかった。例年通り、「教室では学ぶことができない興味深い体験をすることができた」と「教員や技術員の説明は十分に理解できた」の満足度が90%以上となり、参加した学生へ満足できる経験や学びを提供できたと考えられる。一方で、「宿泊（休憩）施設に満足している」は他の設問に比べて満足度が低かった。「総合的な満足度」では約95%の学生が「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答しており、実習に対する評価が非常に高かったと考えられる。



アンケートの課題

実習で学んでいない内容について、満足が最も低い回答である「まったくそう思わない」を選択する学生がいた。本当に満足していないのか、学んでいないために満足していないのかを明確に分ける必要があると考え、来年度以降、学んでいない場合には「学んでいない」などの選択肢を増やした方がよいと考えている。

自由記述で挙げられた改善点・要望のまとめ

例年は、複数回答のあった意見や改善が必要な意見を抽出しているが、今年度は当センターの施設を使った宿泊がなく、施設面についての改善点が少なかった。また実習内容についても、複数回答がある意見は得られなかったため、今年度はほぼ全ての回答を抽出した。

「実習内容に関する改善点」

- ・ 給餌の際に、餌の種類について実物を示しながら説明していただきましたが、混んでいる場所では見えにくいので、広い場所で説明をするか、給餌体験の前に体験者をそれぞれの牛舎に分けてから説明をする方が良いかもしれないなと思いました。
- ・ 時間の都合上仕方なかった点ですが、選果の様子をもっと見たかった。
- ・ 他の野菜などを育てている所を見学してみたかった。
- ・ ドローンの説明が聞きづらい時があった。
- ・ 立って話を聞く時間が長かった。
- ・ 少し休憩を増やして欲しい。
- ・ 資料とか欲しいです。
- ・ 牛の管理システムの文字をもう少し大きくして欲しい。
- ・ 食資源センターでとれた野菜を使った昼ごはんの支給があれば嬉しい。

「施設に関する改善点」

- ・ 溝周りが見えづらくこけそうになりました。
- ・ 草刈りができていない点
- ・ 自販機が近くにあればなあと思いました。